



## 令和2年度予算編成について

昨日、「令和2年度予算編成方針」を各部局長に通知し、新年度当初予算編成作業を本格的に開始した。

### 1 予算編成の基本的な考え方

- 本市の財政状況は、近年、歳入面では市税や地方交付税等の一般財源の減収、歳出面では扶助費や施設管理費の増加に加え、過去の大型の投資的事業に伴う公債費の増加等により、大変厳しい財政状況が続いてきた。

こうした状況に対し、構造的な歳出超過状態から脱却し持続可能な財政構造を確立するため、2017年度（平成29年度）に「財政健全化緊急プログラム」を策定し、2018年度（平成30年度）からの5年間で構造的な歳出超過状態の解消を目指すこととした。

- 厳しい財政状況を踏まえながらも、「市民創造都市 高岡」の実現を目指すため、これまでも「まち」、「ひと」、「しごと」づくりに戦略的に取り組んできた。将来にわたり持続可能なまちづくりを見据え、さらなる進捗に向けては、地方創生の原点に立ち返り、未来を担う子どもたちのため、学校再編と小中一貫教育の推進を軸とした「ひと」づくりを重点に、「しごと」「まち」へと効果が波及し、好循環が生まれる施策に、**選択と集中の視点**を持って、引き続き取り組んでいかなければならない。2020年度（令和2年度）には、第2期「未来高岡」総合戦略がスタートする。若年層の転出超過や人口減少の克服は、地方の構造的な課題であるが、これには地域成長力の維持・確保が不可欠である。このため、第2期の総合戦略においては、SDGsの考え方を取り入れるとともに、Society5.0の到来を見据えたIoTやAIなど、次世代技術の積極的な活用、限られた資源（施設やサービスなど）の最大限の有効活用、地域コミュニティの維持・強化など、持続可能性を高めるための新たな視点を持ち、目標達成に向けた取り組みを着実に進めていく。

加えて、「とやま呉西圏域」連携中枢都市圏では、2020年度（令和2年度）に都市圏ビジョンの最終年度を迎えることから、これまでの取り組みを評価検証するとともに、目標達成に向けた取り組みを着実に展開し、将来にわたる圏域の活力の維持向上に向け、6市の連携を一層深めていく。

- こうしたなか、緊急プログラムの着実な推進を基本姿勢として、持続可能な行財政運営の実現を目指すため、職員がこれまで以上にコスト意識を持って個々の実務の検証及び創意工夫に努めるなど一層の効率化を図る。

また、緊急プログラム期間終了後においても、持続可能な行財政運営が維持できるよう、未来を見据えた予算編成に取り組むこととする。

## 2 令和2年度予算編成のポイント

### (1) 部局別枠配分予算編成の実施

「財政健全化緊急プログラム」に掲げる削減目標を達成するため、部局毎に一般財源の予算要求枠を設定する。

#### 【令和2年度削減目標額】

一般行政経費の15%相当(約6億円)以上の削減額(一般財源ベース)を目指す。

### (2) 予算要求特別枠の設定

#### ① 「未来に繋ぐ高岡新機軸」事業枠の設定

緊急プログラムに基づく持続可能な仕組みづくりを加速化することが必要であり、未来に繋ぐ事業への選択と集中が必要。このため、「ひと」づくりをはじめとする施策の推進や費用対効果を高めるための体系的な施策の見直し、業務の標準化や省力化、施設・事業の再編、周辺地域との連携や市民との共創などの取り組みについて、エビデンス(根拠)に基づく事業効果の検証を十分に行うことを前提に、「未来に繋ぐ高岡新機軸」事業枠として、予算要求枠外での事業提案を募る。

#### ② インセンティブ制度(予算要求枠の拡大)の継続

歳入確保の状況やゼロ予算事業(予算措置不要な事業)の提案内容に応じて予算要求枠を拡大する。

[参考：予算編成日程]

11月上旬	予算要求書の提出
1月中旬～1月下旬	市長査定
2月中旬	予算(案)の発表

担当：総務部 財政課 (電話 20-1245 内線 2314)